

東由利町報

5月

昭和58年

No. 338 昭和58年5月1日発行 編集・発行 / 秋田県東由利町役場企画財政課 毎月1日発行

空から
こゝろには

館合新田



今 S. 57.11.6 撮影



昔 S. 49.10.17 撮影

10 ha の葉たばこ畑造成

交通の基幹をなす二本の県道が沖田橋で接する田代地区。一本は、仁賀保・矢島町を通り、大吹川、石高を経て館合、八日町に至る仁賀保矢島館合線。もう一本は、沖田橋から住吉、黒淵、智者鶴を経て羽後町に通じる羽後向田館合線。前者の田代、石高間は、五十七年に全幅八分のりっぱな舗装道路に生まれ変わりました。現在、この前後、沢中地内と田代、高戸屋間で改良が進められています。

羽後向田館合線は、黒淵側から田代集落入口まで改良舗装を終えています。

明治二十五年に創立され、黒淵地区を含めた地域の教育、文化の拠点として役割を果たしてきた住吉小学校は、昭和五十七年四月、複式学級、老朽校舎解消のため、全町三校案に基づき、玉米小学校と統合し九十年の長い歴史の幕を閉じました。今後、跡地をどう利用するかが課題とされています。

旧住吉小北側には昭和四十九年、へき地保健福祉館が建てられ、住吉会館の呼び名で地区の健康増進、生活向上、コミュニティづくりに活用されています。

地域農家は、水稻を基幹作目に、複合作目として肉用牛のほか葉たばこ栽培に取り組み、五十三年には二次農構事業で石高、下小屋地内合わせて約十畝の葉たばこ畑造成を行い、規模拡大、安定所得の増大に努めています。

なまの意見を町政に反映

沼田さんが自治会長表彰

納税優良表彰は二組合

なまの意見を聞いて町政に反映し、よりよい町づくりを——と、毎年度初めに開いている自治会長会議は今年、四月二十八日朋楽荘で開かれました。この日会議に先立ち、自治会長として長年にわたり集落自治の振興と町行政の円滑な推進に協力し、町勢発展に寄与された奥ヶ沢の沼田勇雄さんと、納税意識の高揚に特に顕著な成績をあげている二納税組合に、町長から表彰状と記念品が贈られました。

集落の発展が町勢発展に直結

午後一時過ぎに始まった会議では、表彰に続いて町長があいさつに立ち、魅力ある豊かな町づくりを目指し、農林畜産業の振興▽商工業・地場産業の振興▽工業導入▽健康な暮らしの推進▽水道拡張整備▽教育上の問題点の研究・解決▽町財政の概要——などについて基本的な考え方、推進策等を説明したあと、「民主政治の基本は集落自治会にあ



沼田勇雄さん

り、集落の発展が町勢発展につながる。この発展のため最大限の努力をする」と述べ、一層の理解と協力をお願いしました。

続いて、小野議会議長、小松農協長から祝辞が述べられ、各課長が、お知らせと協力依頼事項について説明しました。

このあと、各自治会長から事前にはがきで寄せられていた質問要望事項について、担当課長がそれぞれ回答しました。質問事項は合わせて四十四件。内容は、道路改良舗装整備に関するものが二十二件と半数以上を占めたほか▽防火水槽や街路灯の設置▽役場からの連絡事項、配付物の各課調整▽害虫駆除▽集落センターの建設——などが主なものでした。

続いて意見交換に入り、自治会長側からは▽庁舎内案内



活発な意見・要望が寄せられた昭和58年度自治会長会議（朋楽荘で）

項は次のとおりです。

◎納税優良表彰

- ・館西納税貯蓄組合
- ・地下の沢納税貯蓄組合

◎お知らせ

【総務課】

○「町づくり広報バス」について
板の設置▽道路がけ地等危険カ所への防護措置▽家屋新増築の際の道路からの距離▽後継者対策——などについて意見、要望が寄せられ、それぞれ早急且つ積極的に対処していく旨の回答がなされました。

表彰納税貯蓄組合、各課からの主なお知らせ協力依頼事項

田植え終了後に運行。詳細は後日お知らせします。

○自治会の交付金について
自治会長手当の世帯数割について、57年比五十円アップして千五十円としたほかは前年と同じです。

【企画財政課】

○土地売買等の届出について
国土利用計画法により、本町の場合は一〇、〇〇〇㎡(約一町歩)以上の土地の売買等の契約をする場合は、売る人、買う人があらかじめ届出書を町長を通して知事に提出しなければなりません。(予約の場合も同じ)

知事は、届出書の内容が適当であれば六週間以内に許可します。この許可がなければ登記はできません。

届出用紙は役場企画係にあります。

○納税奨励金について
交付基準は前年どおりです。

○58年度町税の納付について
1、町・県民税と固定資産税には前納報奨金の制度があります。前納の際は、印鑑を持参してください。

2、国保税は、前年度比一%の減となっております。課税限度額は、法律の一部改正によって二十八万円となりました。

【住民課】

○老人保健法について

○「県子ども会共済」「清掃週間」「防犯運動」「交通安全運動」——について

○ごみ処理について
1、燃えるごみ、燃えないごみを区別し、収集日当日朝八時までに、集積所に出してください。

2、集積場所の清潔確保に特に留意してください。

【産業経済課】

○出羽丘陵開発事業について
○水田利用再編対策の推進について

1、補助金単価は前年度と同じです。八月に概算払、十二月に精算払いをします。

2、六月・八月・十月に一斉現地確認を実施します。

3、限度数量は六月中旬に配分の予定です。

【建設課】

○道路敷の無許可使用の禁止について
道路側溝を埋め立てたり、小橋を架けたり、工作物や建物を建てたりする場合は、道路管理者(知事又は町長)の許可が必要です。(旧道路敷も同じです)

○家屋の新増築について
1、県知事から建築確認許可を受けてから着工してください。

2、冬期間の除雪等を考え、道路から二m以上離して建築するようご協力をお願いします。

【教育委員会】

○青少年の健全育成について
1、危険な遊びなどをしてい

たら、他人の子でも注意するなど、声かけ運動の励行をお願いします。

2、校外生活指導員や子供会と自治会とが連携をとり、健全育成につとめてください。

3、自治会の集会や家庭等でも、非行防止、青少年育成について話題にしてください。

現職四・新人六氏が当選 52年以降三期連続投票なし

農委選挙

四月三十日で任期満了となる町農業委員選挙は、四月十六日に告示され、翌日午後五時で立候補の届出が締め切られました。その結果、定数どおりの立候補者しかなく、六新人を含む次の十名の無投票当選が決まりました。無投票は、五十二年以降今回で三期

連続です。また、議会からは小松豊氏(69歳、高戸屋)、遠藤正男氏(47歳、野田)、畑山作喜氏(41歳、土場沢)、阿部幸悦氏(41歳、岩館)、小松哲夫氏(56歳、須郷田)、農協からは佐藤正一氏(67歳、律沢)、農業共済組合からは小松真一氏(74歳、黒沢)が推薦されました。町では、今月十二日に初委員会を招集し、会長及び会長職務代理等を決定して新体制を整えることにしています。新委員の任期は、五月一日から昭和六十一年四月三十日までの三カ年です。

当選者氏名等 (立候補届出順略)

畑山一郎	49歳	新	館合新田
小野長光	56歳	現	宿
佐々木藤喜	55歳	現	大琴
遠藤平輔	53歳	新	小倉
伊東隆	57歳	現	蔵新田
畠山孝一郎	49歳	新	石高
横山治三郎	63歳	新	泡の淵
高橋典三	54歳	現	久保
小松長四郎	60歳	新	上通
鈴木和夫	31歳	新	沼

公民館長に小松氏就任

梅津館長が勇退

町公民館長の梅津嘉一郎さん(五十七歳、大琴)が、三月三十一日で勇退され、町教育委員会は、後任に四月一日付で小松忠正さん(元教員、六十歳、下通)を発令しました。



小松新館長



梅津前館長

梅津さんは、昭和四十九年四月二日に専任館長に就任。以来九年間、社会教育の充実、生涯学習の推進にその手腕を発揮されてきました。小松新館長は、昭和二十三年から教職にあり、五十七年三月老方小学校教頭で退職。社会構造や生活態様が複雑多岐をきわめ社会変動の激しい現代において、社会教育に対する町民の期待は一段と高くなってきており、新館長の今後の活躍が期待されます。

臨時議会

農業委員に五氏推薦

老人・身障居室整備資金貸付金など補正

町議会第四回臨時議会が四月二十七日に招集され、農業委員の推薦のほか三議案を審議し、いずれも原案どおり可決して閉会しました。

推薦・可決案件

【農業委員会委員の推薦について】

四月三十日で任期満了となる議会推薦の農業委員に、小松豊(69歳、田代字高戸屋七)、遠藤正男(47歳、法内字野田一二二)、畑山作喜(41歳、宿字土場沢二八)、阿部幸悦(41歳、蔵字岩館五一)、小松哲夫(56歳、田代字須郷田三九)の五氏を推薦した。

【五十八年度町一般会計補正予算(第一号)】

歳入歳出予算の総額に、それぞれ千三百二十七万円を追加し、歳入歳出それぞれ二億三千八百六十四万三千円とした。

歳出補正はマ老人居室整備資金貸付金六百万円▽身障居室整備資金貸付金五十万円の▽教員住宅建築費等五百二十

八万九千円▽八塩いこの森花照灯電源工事費二十万七千円―などが主なもの。
【専決処分の承認を求めることについて】

○町税条例の一部を改正
○町国民健康保険税条例の一部を改正

地方税法等の一部を改正する法律が公布されたことに伴い、関係条例の一部改正が必要となったもの。

これにより、国保税課税限度額は二十八万円(現行二十七万円)に改められた。

県消費者モニター

イ子さん(田代)に委嘱 菊子さん(横小路)

物価及び消費者保護対策の推進を図るため、県では、県内に百七十六人の消費者

モニターを委嘱しています。本町では、田代の渡辺イ子さん、横小路の赤川菊子さんが四月一日付で委嘱されました。

社教主事(スポー)に堀先生派遣

小松先生は八塩小へ

先の県教職員定期異動により、県教育委員会から派遣されていきました社教主事の小松昭作先生(元袖山小教諭、

下小路)が八塩小学校に転任され、新しく、スポーツ担当として堀鉄三郎先生(前八塩小教諭、大内町)が四月一日付で発令されました。



堀先生

堀先生は、今後三年間の予定で、町社会教育スタッフ陣の一人として、特に社会体育の推進に当たっていくことになり、今後の活躍が期待されます。

お気軽に消費者モニターに相談してください。簡単なものはモニターが、難しいものは町又は県生活センターが処理します。(場合によっては、物品の提出を願うことがあります。)

一戸平均95万円の建設事業

町・県営合わせて13億円投資

先ごろ、昭和五十八年度の国・県予算も決まり、今年は今町・県営事業合わせて十三億五千万円余りが町内の生産基盤や交通網、生活環境などの建設事業に使われることになりました。これは、一戸当たり金額にして約九十五万円の事業を、全家庭で実施する計算になります。今号では、これらの中から主なものについて、概要を紹介します。

蔵工区は今秋にも開通



国道一〇七号線蔵工区は、今年三億八千二百万円、西の浜から横渡間二、九〇〇の全線の改良舗装を終え、今秋にも開通する見込みとなりました。

このほか、蔵の洞門にかかる高瀬川橋補修費三千万円となっています。

町では、蔵工区に引き続き、横渡から本荘市山内間の改良に着手するよう、これまで関係機関に要請してきました。その結果、今年度にも同

今秋開通をめどに急ピッチで工事が進められている一〇七号線蔵工区

区間の測量調査が行われ、路線が決定される見込みとなりました。

県道 山崎鴻屋十文字線が公共事業採択

公共事業採択が懸案となっていた県道山崎鴻屋十文字線が、今年から国の補助を受け、特殊改良一種事業として全幅七割に改良されることになりました。

同路線は、久保から山崎、松柴を通り羽後町田代に抜ける路線で、久保山崎間は、県単事業で既に改良舗装済みとなっています。

公共事業採択初年度の今年度は、三千万円で山崎の田屋橋から柴倉間二・三五割が改良される予定です。

本町と矢島、仁賀保町を結

法内線今年で事業完了

一般に法内線と呼んでいる県道神岡坂部横渡線は、今年三千万円で中の沢地内六八〇の舗装工事を終え、今年度で由利土木事務所管轄の全事

業が完了となります。また、同線の白沢峠から大森町側は、平鹿土木事務所管轄で工事が進められ、白沢峠はトンネルとなる計画です。

ぶ県道仁賀保矢島館合線は、二つの事業が導入され、それぞれ工事が進められています。一つは、雪寒地域道路整備事業といい、今年度は四千五百万円、ダム道路入口から大吹川に向かう沢中地内三八〇の改良を計画しています。もう一つは、特殊改良一種事業といい、高瀬川にかかる川原田橋(高戸屋)から時雨山間三〇七割の改良が行われる予定です。

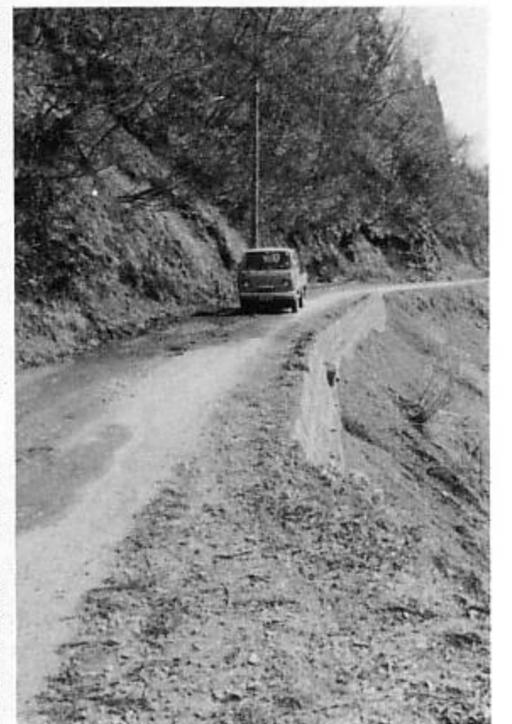
祝沢線・黒沢線の舗装は特改四種で

昨年から舗装工事が行われている通称・祝沢線の県道横

軽井沢農免道の舗装完了

農免農道軽井沢線は、今年七千二百万円の下吹、大吹川地内の舗装と法面保護工事をを行い、全事業が完了となります。

これにより、五十六年に改良舗装を終えた根小屋線と結



今年から特殊改良一種事業で改良されることになった山崎鴻屋十文字線(松柴地内)

手東由利線は、今年から特殊改良四種事業に採択され、国の補助を受けて工事が進められることになりました。今年度は、一千万円で笹倉トンネルから中祝沢間一、〇〇〇の施工予定となっています。横渡から黒沢を通り大内町

にぬける県道榑瀬横渡線も今年、特殊改良四種事業として大内町界から若林間一、〇〇〇の舗装工事が行われます。また、横渡から黒沢トンネル間については、今年、県単独事業として改良工事に着手される見込みです。

ている高村線は、四千七百万円で樽水地内四二五割の改良を予定しています。

団体営農道整備事業として昨年改良着工した大台線は、今年三千八百万円で大台地内七六〇割の改良を予定しています。

八塩開拓道路は今年から舗装着手

山村基幹農道整備事業玉米地区として工事が進められている新沢線は、三千二百万円、荒沢地内七四〇割の改良と、新沢地内三〇〇割の舗装を予定しています。

広域付帯農道整備事業八沢木地区として工事が進められ

八塩開拓道路は、ヨシヤチ地内三〇〇割の改良と、今年から新たに舗装工事に着手します。今年の舗装延長は金森沢地内一、〇〇〇割を予定。改良・舗装費合わせて三千万円となっています。

激励懇談会の内容検討を

就労安全対策協議会
事故見舞金を支給

町出稼ぎ就労者打ち合わせ
会及び町出稼ぎ就労安全対策協議会総会が四月二十二日、有鄰館で行われました。

これは、前年度の出稼ぎを反省し、問題点を話し合い、次季就労に向けて情報交換を」と、毎年この時期に開いているものです。

この日は、グループリーダーや地区連絡員、来賓ら合わせて百十人余りが出席。担当係から▽地域別・産業別就労状況▽雇用保険受給手続きー稼ぎ者側からは▽玉掛講習会

労働者代表の鎌田晴也さん(黒淵)に町長から表彰状を贈呈。長年グループリーダーとして、安全就労と会社発展に貢献したとして横浜市中谷工業株式会社から荘野徳一郎さん(下小路)に贈られた表彰楯を伝

優良季節労働者等表彰

本町に感謝状

長洲神奈川
長洲同県知事から
感謝状

神奈川県建設労働者受入協議会の主催する昭和五十七年度優良季節建設労働者等表彰式が三月二十八日、横浜市中区の神奈川県建設会館で行われ、送出協力市町村として本町に、長洲同県知事から

感謝状が贈られました。感謝状は小松町長の名になっていますが、本町出稼ぎ者の皆さんの誠実、勤勉な就労ぶり、勤められたものであり、全町民がともに喜び合いたいものです。



鎌田晴也さん



荘野徳一郎さん

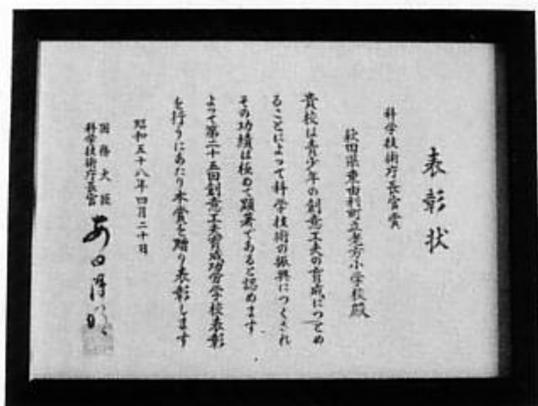
また、この日会
議に先立ち、就労
前健康診断受診優
良グループとして、
関西ヤマザキ株式
会社(大阪府)就



長谷山勘太郎さん



また、十七年
間にわたって同
県足柄上郡の有
限会社・石井建



老方小が表彰

科学技術
庁長官

昭和五十八年度創意工夫功
労者及び創意工夫成功労校
の表彰伝達式が、四月二十二
日県庁で行われ、本町老方小
学校に県内でただ一校、科学
技術庁長官からの表彰状と表
彰メダルが贈られました。

の育成につとめ、科学技術の
振興に顕著な成績を上げてい
るものに与えられる賞で、老
方小は、日常の創意工夫活動
とともに、全日本発明工夫展

創意工夫に顕著な成績

をはじめ、郡市や県展で毎
年多くの入賞作品を出してい
る実績が認められたものです。
また、これと併わせ、財
団法人・国産技術振興会か
ら、庁官表彰を受けたこと
を顕彰する賞状と、副賞と
して表彰楯、賞金十万円が
贈られました。

設に出稼ぎ就労している本町
地下の沢の長谷山勘太郎さん
に、優良季節労働者として同

保健婦の健康家族メロ



貧血といえは血液
の量が足りないかと考
えられがちですが、
それは間違いで、血
液中の赤血球や血色
素(ヘモグロビン)
の量の少ないこと、
つまり、血の薄い状
態のことをいいます。
色素が不足する
と、体の隅々まで酸
素が供給されないの

四割近くが貧血

鉄分を多く取りましょう

貧血は、長い間の栄養の偏りや不規則な食生活によ
っておこるといわれます。
貧血が長く続くと、皮膚
がカサカサして老化も早
く、病気に対する抵抗力
も弱くなります。
貧血にならないよう、
鉄分を多く含むレバーと
か新鮮な緑黄色野菜や果
物、卵、肉、魚、乳製品、
海藻などを十分に取りま
しょう。

町貧血検査成績

(S. 53年~57年)

地区	正常 (70.7%)	軽度貧血 (23.9%)	要治療 (5.4%)
黒淵地区	(66.4%)	(28.3%)	(5.3%)
田代地区	(68.2%)	(25.9%)	(6.7%)
館合地区	(68.4%)	(24.4%)	(7.3%)
蔵地区	(65.0%)	(28.9%)	(6.1%)
法内地区	(54.5%)	(29.9%)	(15.6%)
宿地区	(66.1%)	(28.7%)	(5.2%)
全町	(66.4%)	(27.3%)	(6.3%)

町では、毎年貧血検査を行
っています。過去五カ年間
の統計を見ますと、四割近く
の人が貧血となっています。
貧血は、長い間の栄養の偏
りや不規則な食生活によ
っておこるといわれます。
貧血が長く続くと、皮膚
がカサカサして老化も早
く、病気に対する抵抗力
も弱くなります。
貧血にならないよう、
鉄分を多く含むレバーと
か新鮮な緑黄色野菜や果
物、卵、肉、魚、乳製品、
海藻などを十分に取りま
しょう。

受入協議会長から表彰状が贈
られました。

知事・県議選

千二百三十二人がキケン

もつたない無効八十一票

秋田県知事選挙並びに秋田県議会議員選挙は、四月十日に投票され、即日開票の結果、知事には現職の佐々木喜久治氏が、由利郡選出県議には、はせべ誠氏、檜岡貞龍氏、佐藤しゅう一氏がそれぞれ当選しました。

本町では、雇用保険受給資格の関係から出稼ぎ者の帰郷前とあつて投票率の低下が心配され、町選挙管理委員会、町明るい選挙推進協議会では、老人クラブ、婦人会等の団体の協力を得、投票総参加の啓発運動を展開しました。

しかし、十日午後七時から有鄰館で行われた開票の結果、投票率は、男子が六七・二一%、女子が八五・〇八%、全体では七六・三八%で、前回五十四年より六・五一%下回り、別表のとおり郡平均より八・六%、県平均より五・九二%も下回りました。

この原因としては、出稼ぎによるもののほか、依然として恒常的な棄権者が多いことがあげられています。選挙は、自分たちの生活を豊かにし、生きがいのあるものにするために安心して政治をまかせられる、自分たちの代表を選ぶものです。

〈昭和58年4月10日執行

知事・県議選投票結果 (県議分は計のみカッコ書きで掲載)

Table with columns: 投票区, 当日の有権者数, 投票者数, 棄権者数, 投票率, 内訳 (男, 女). Rows include districts like 黒淵地区, 住吉, 袖山, etc., and a total row for the town and county.

選挙の年と言われる今年、六月には参議院議員選挙、七月には町長選挙が予定されています。一人ひとりがつと政治に目を向け、この一票が暮らしを左右する、という意識を持って、おつくうがらずに投票に参加していくことが望まれています。

本町開票結果は次のとおりです。カッコ内は県・郡得票

次点 高橋 清人 共産新 (二二二、七二三票)

次点 佐藤なおたか 無所属新 (四、一七二票)

【秋田県知事選挙】

投票総数 三、六六〇票

有効 三、五七九票

無効 八一票

当選 佐々木喜久治 無所属 (六一八、八五五票)

次点 (六二八、八五五票)

当選 佐々木喜久治 無所属 (六一八、八五五票)

次点 (六一八、八五五票)

【由利郡選出県議選挙】

投票総数 三、六五七票

有効 三、五七九票

無効 七八票

当選 はせべ 誠 無所属 (一、一六五票)

次点 (一、一六五票)

当選 檜岡 貞龍 自民現 (一七、六八六票)

次点 (一七、六八六票)

当選 檜岡 貞龍 自民現 (一七、六八六票)

次点 (一七、六八六票)

当選 佐藤しゅう一 自民現 (一六、三六四票)

次点 (一六、三六四票)

当選 佐藤しゅう一 自民現 (一六、三六四票)

次点 (一六、三六四票)

工事発注情報 (58.4.25現在)

道路舗装

- 県道横手東由利線
▽施工箇所 祝沢地内
▽工事期限 八月十三日
▽契約金額 三、二六三万円
▽施工業者 村岡建設
○町道金山線
▽施工箇所 沼地内
▽工事期限 六月三十日
▽契約金額 二、二八〇万円
▽施工業者 大沼組
○道路維持 (契約金額)
▽以上三工事の工事期限は六月二十日です。

後田随想



教育次長 小松正昭

海津前公民館長の退任の挨拶状をいただきましたが、その中に「多くの方々の出会いのなかで、多くのことを学び教え戴きました」とありました。

公民館長という職務柄、特別な感慨の込められた言葉であると思いますが、この言葉から、改めて考えさせられるものがありました。

役場職員は、いわゆる事務屋としての仕事のみならず、住民はじめたくさんの人々との接触によって仕事成り立っているわけです。

親切であるいは「笑顔」といったマナーももちろん必要です。しかし、そうしたマナー以前の問題として「人から学び教わる」という謙虚な気持ち、つまり、他人を尊敬する心が根底にあれば、役場職員対住民はもちろん、広い対人関係ももつと潤いのあるものになると思えますし、その過程において、自然に自己の人格も培われていくものと考えます。

「敬天愛人」という言葉がありますが、価値感が多様化し、とかく自己主張の多い現在の社会風潮の中では、こうした心が構えが大切であると思えます。これも多くの人々の中の一つであると思っています。

町長訓辞

「奉仕」「責任」の意識を持って

新年度当初の四月一日、小松町長は、職員人事の異動辞令を交付したあと、全職員に対し次のような訓辞をされました。

ただ今辞令を交付しました

が、与えられた任務に、町民の期待に沿うよう、また町政の発展がさらに進捗するよう努力を希望し、期待します。

最初に、私の任期は八月中旬で終わりますので、進退に

関して申し上げます。在職期間も長くなり、今期で引退を考えていました。しかし最近、後継者のないまま

引退することは、重要事項が山積している現時点において町民に不安を与え、かつ公人の責任を欠くものではないか

という意見を耳にする機会が多くなってきました。これは町民の一般的な見解でないか

と思います、このあと一期は責任があると考え、先般の議会最終日にもこの趣旨の発言を

しました。今日、この席で、町民の皆様及び職員諸君に立候補の意志を明確にしておく

だいで。

自己発見による

能力の向上を

人事異動に関して申し上げます。

人事異動の原則は、行政の能力が年々平均的に発揮できるように構想することだと思

ます。本町のような小規模な構成の中にあつては、特別なポストにある構成員を機械的に異動させることができないとい

う悩みがあります。しかし、全体を見た場合には、そうしたポストにあつても長期間の

間に、長い緩やかなローテーションを考え、そして、皆さんの多様な経験、多くの機会

における自己発見による能力の向上を図り、町勢の発展に

努力していただきたいと考え

ます。

所定の事務行為を 確 実 に

五十八年度の町政運営については、ご承知のような財政事情からして、緊縮行政とい

う原則を貫かなければならぬと考えています。

過日、郡町村会での法定外団体負担金審議の際に、例外

を認めず全部を前年度の一割削減を実施しました。さらに、町村会事業として計画して

しました町長、助役、その他の研修を本年は中止し、

紙を使わない行政を

仕事の内容について二、三申し上げます。

ややもすると行政が作文になるきらいがありますが、作文行政的なものはできるだけ

省略する、あまり紙を使わない行政をやつていただきたい

という事です。物を書き、文章を作ることをもって仕事

だという意識、習慣があるようです。それは手段であつて、

目的ではありません。行政の目的は、具体的な実務を正確

に行うことです。中間でのムダな作文的要素はできるだけ

省略する、それによって我々の頭脳も整理され、行動も直

線的になつていくわけです。この点、お互いに検討する必要があると思

かつ全市郡における研修機会を削減するという申し合わせをいたしました。これは、とりもなおさず、各市町とも財政の

圧迫、硬直に危機感を持つて

いるという意識で、意見の一致をみたしだいで。

本町でも予算が決定されました。しかし、支出にあつてはさらに検討し、所定の事

務行為を確実に、予算執行するといふ態度が必要と思

います。

今年、二名を新規採用しましたが、人間は長い間の修練によつて初めて完成するもの

であり、両君ともに、役職員になつたという安心感でなく、今日がまつたくのスター

トであるという意識を持ち、研修に励んでほしいと思

います。

研修と申しましたが、東由利の実態からして、他の諸官

行するといふ態度が必要と思

います。

予算書を見ますとマ繰り越し金の減少マ公債比率の増高

—など、町財政が年々苦しくなつてきている実態がおわ

かりになると思っています。

本年皆さんに考えていただき

かなければならないことは、

補正予算は非常に窮屈になつてきているといふことです。

受ける新人の態度が大事なこ

ととを考えます。

人間の弾力を 持った態度で

これまでは、あまりセーブしないで補正予算計上を認めましたが、五十八年度はそういう状況にはならないのではな

いかという感じがしています。

また、一年間の事業計画を

早期に構想を立て、年間の行

事執行に対して計画性をきち

んと持つてほしいといふこと

です。

常に限られた人数が、限られた時間内に数多くの行政を

処理しなければなりません。

そこに必要となることは、一口で言うとは簡単明瞭な態度だ

と思

そのためには、数年前から掲げている標語「連絡・協議・計画・実行・確認・報告」を、

年度始めに当たりもう一度再確認され、行政の順序とい

うものを意識し、無意識的にでも順序がふめるといふ経験を

豊富にしていただきたい、それが結局、物を処す簡単な態

度につながるっていくものだと

うと考えます。

公務員は、公の奉仕者であるとともに、公に対する責任

者でもあるわけです。この両面の「奉仕」「責任」を強く意

識し、本町発展のために五十八年度もがんばっていただき

たいと思

昭和57年度
(10月~3月)

東由利町の財政 下半期財政報告

昭和五十七年度下半期(五十八年三月三十一日現在)の町財政の状況をお知らせします。

五十七年度は、臨調答申を尊重した国の緊縮型予算によって、公共事業の臨時拡大分の起債充当率の引き下げや零細補助金の見直し・カット、償還費について交付税需要額算入されていた財源対策債の廃止など、一段と厳しい環境の中での財政運営を余儀なくされました。

しかし、町民のニーズに対応するため、国・県の諸制度を積極的に活用し、効率的な財源配分に努めた結果、一般会計最終予算額は二十三億九千五百十三万円となり、当初予算比九・〇%増となりました。予算に対し、三月末日現在の収入済額は十九億三千二百九十七万円で八〇・七%、支出済額は十九億三千六百三十三万円で八〇・六%となっています。

各項目別予算額、町有財産、公債現在高、特別会計の状況などは、下記のとおりです。
注：五月末日まで出納整理期間となっており、今回の報告と決算とは異なる場合があります。

一般会計最終予算額 2,395,130千円

〈歳入〉 収入済額 1,932,970千円 (80.7%)

(単位：千円)

町	税	最終予算額	164,170	(11,253)	7.9
地方譲与税	〃	25,198	(△ 1,375)		
地方交付税	〃	966,739	(2,194)	40.4	
国庫支出金	〃	405,270	(7,512)		
県支出金	〃	239,028	(△ 1,024)		
繰入金	〃	71,816	(△39,027)	26.9	
繰越金	〃	67,412	(0)	5.8	
町債	〃	328,200	(4,800)	13.7	
その他収入	〃	127,297	(19,303)	5.3	

〈歳出〉 支出済額 1,930,636千円 (80.6%)

(単位：千円)

議会	費	最終予算額	51,219	(547)	12.9
総務	費	258,634	(27,659)		
民生	費	168,885	(△ 1,013)	10.0	
衛生	費	70,635	(△18,260)		
労働	費	5,086	(0)	21.2	
農林水産業	費	489,775	(796)		
商工	費	13,135	(1,181)	6.2	
土木	費	148,882	(△ 2,911)	4.4	
消防	費	105,063	(△ 870)		
教育	費	700,379	(△16,886)	29.2	
災害復旧	費	129,099	(11,519)		
公債	費	248,673	(1,813)	5.4	
諸支出金	〃	1,665	(61)	10.7	
予備費	〃	4,000	(0)		

凡例 済 未 ※カッコ内は下半期補正額



特別会計の状況

(単位：千円)

国民健康保険

予算額 401,383
収入済額 383,892
支出済額 328,185

老人保健医療事業

予算額 17,509
収入済額 3,558
支出済額 1,060

黒淵診療所

予算額 2,060
収入済額 3,233
支出済額 1,580

簡易水道事業

予算額 317,148
収入済額 57,909
支出済額 54,674

大平スキー場運営費

予算額 10,367
収入済額 10,195
支出済額 4,639

玉米財産区

予算額 3,805
収入済額 5,249
支出済額 3,585

基金 381,427千円 土地 7,089,275m²

(うち山林 1,262,937m²)

財政調整基金	229,303千円
国保財政調整基金	86,969千円
簡易水道財政調整基金	18,345千円
土地開発基金	20,000千円
高額療養費貸付基金	2,000千円
中小企業振興基金	6,000千円
奨学資金貸付基金	1,010千円
国民年金印紙購入基金	400千円
高齢者等肉用牛飼育事業貸付購入基金	17,400千円

建物 31,234m²
有価証券 1,493千円
出資による権利 8,079千円
自動車、ブルドーザー等 35台

町有財産

町有財産

捨てられた「モラル」拾う

国道沿線空きかんダンプで二台



「通り魔汚染」は公德心の問題。「ポイ捨て」はやめて、

「カラーン、コロコロ」
近くにくずかごもないし、一
つぐらいいは——と無造作に投

東由利の地名

= 35 =

地名で白・黒など色のつくのはあちこちにある。例えば、中の沢から羽広に通ずる白沢峠、舟打場の赤倉、寺田と祝沢の間の赤坂、それに黒淵や黒沢などある。

この黒を語源として、大島正健は「クルクルから生じた語幹クラ(眩)が、目が眩むとくらくらして明りを失うところから、クラ(暗)の義に移り、更にクロ(黒)に転じた」のだろうと言っている。別に「クレイロ(暮色)の義

捨てられた空き缶や紙くず、捨てられた空き缶は、マチや自然の美観を損なうばかりで

からのクロ」ともある。

またクロはクリ(漕)と同じ語の色の名で、木炭や墨の色をさし、白と対比して言ったりするが、水の底によども黒い土をさしているともある。そしてクロは「転・巡」の意で「川の屈曲点にある瀬や、

黒淵(漕)・黒沢

川などがめぐりめぐって曲流したところ」など呼んだようである。似た語にクルがあるが、これは「河谷・山裾などの湾曲したところ」などを言っている。

フチは黒淵地内を流れる高

なく、省資源・省エネルギーの点でもマイナスです。

「きれいな町で健康なくらし」を生活目標に掲げている町では四月七日、同月二十四日から行われる春の全町清掃週間に先駆けて住民・建設両課職員やブルオペレーターらが出て、板戸と奥ヶ沢間約十七町の国道沿線のゴミくず拾いを行い、「ポイ捨て禁止」を呼びかける啓発看板を立てました。

雪が消えたあとの道路端は、さながらゴミの「帯」。側溝や路肩、枯れ草の中から拾いあげたゴミの量は、ダンプトラックで二台分。中には、一升びんやミニタル、タイヤなどもかなり多く、捨てられたモラルの質・量に、ゴミ袋を

瀬川の淵に由来するものと思われるが、近くの山や山の崎・耕地・集落などの縁に沿っていることからのフチかも知れない。そして川の水の流れがたまってよども深くなった深水から(フチは深い所)変化した語だとも言われる。

とすると、黒淵は川の曲がりくねりや深い所も多くあることからの地名で、黒沢は河谷・山裾などの湾曲した沢ということかも知れない。

(文・畑山昭一)

手にした職員らもびっくり。道路も我が家の庭と同じです。誰れも見えていないからといって「窓からポイ」はいけません。自分一人は必ず見ているのです。

「通り魔汚染」は、わたしたちの公德心の問題です。美しい自然を守り、ゴミのないきれいな町で快適な生活を送れるよう、お互いに気をつけたいものです。

町長日記

学校給食

学校給食は占領軍の政策によって始まったものですが、善意の面と政略的な面があったように思います。

- 1. 善意の面は
- 2. 敗戦直後の食糧不足の対応
- 3. 日本人の基本的な栄養改善

- 1. 教育において、食文化の位置付け
- 2. 食糧による国家間の連帯
- 3. アメリカの農産物の供給拡大

占領軍の放出物資の脱脂乳を飲んだ経験を経ながら、学校給食は栄養の意識と食生活の改善に役立ち、食事のマナーを良くしました。

反面、パン食が普及し米の消費が減り、食糧の自給度は激減しました。このあ

と、学校給食に無自覚であつてならないと思う点を二、三申し上げます。

学校給食は、栄養、カロリーに重きを置いていますし、大量を調理しますので時間的な省力が必要となり、給食費も一定の予算で仕上げなければならず、どうしても献立の内容が一定化し全国似たようなものになると思います。

仕方ないことではありますが、残念なことでもあります。

食は文化でありまして、その国、その郷土はそれぞれの生産物をもって食文化を創り出しています。

文部省は、学校給食の意義を「学校給食は児童生徒の心身の発展に資し、且つ、国民の食生活の改善に寄与するものである」としています。

「国民の食生活の改善に寄与する」という点を、単に栄養、カロリー、合理性という単次元で割り切らないで、郷



土食的なパターンをいくらかでも学校給食に取り入れ、家庭食との距離があまり大きくならないよう工夫が必要だと思います。調味料、添加物は限度を超えると危険なものでありましようし、昔からあった天然の持つ自然の味わいの良さを子供に教えたいたいです。

本町では小学校統合が進展しないため、給食センター方式で解決すべきという意見もありましたが、私は、学校ごとに給食すべきと考えました。明春から三小学校が揃って給食が出来ます。後発のメリットと申しませうか、全校生徒が一つの食堂に会することの出来る理想的な給食が実現します。給食は、教育を通じた食文化の位置づけの教育行為でありまして、単に昼食を食を食べきさすということだけではないのであります。地域の父兄の皆さんには関心を持って学校給食を推進し、協力されますようお願いいたします。

5月(皐月)のこよみ

曜日	行	事
①	日	
2	月	
③	火	憲法記念日
4	水	
⑤	木	こどもの日、第23回青年駅伝大会
6	金	民生委員会(13:30、朋楽荘)、町連合PTA総会
7	土	
⑧	日	
9	月	
10	火	
11	水	生ワクチン投与(14:00、有鄰館)、春の交通安全運動(~20日)
12	木	乳児健康相談(9:30、有鄰館)、農業委員会
13	金	
14	土	朴の木沢放牧場開牧
⑮	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
⑳	日	
23	月	
24	火	
25	水	三種混合予防接種(14:00、有鄰館)
26	木	
27	金	献血車来町
28	土	
㉑	日	
30	月	リハビリ学級(有鄰館)
31	火	
摘要		

おしらせ

町の概要

人口総数 6,234人
 うち男 3,078人
 うち女 3,156人
 世帯数 1,429戸
 面積 148.51km²
 (S.58.3.31現在)

教職員異動

本荘高校下郷分校

〔転入〕 (敬称略)

・鈴木 緑……講師
・佐藤博英……講師

労働保険料申告書

は5月15日までに

労働保険(労災・雇用)の年度更新の時期がきました。申告書は、記載要領をよく

読んで正しく記入し、保険料を添えて五月十五日まで銀行郵便局へ提出してください。やむを得ない事情で五月十五日までに保険料を納付できない場合でも、申告書だけは本荘労働基準監督署または秋田労働基準局へ提出してください。

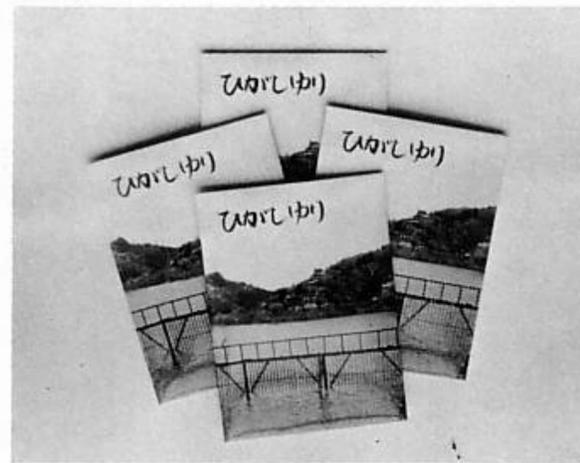
申告書の記入方法に不明の点がありましたら、本荘労働基準監督署へおたずねください。(本荘労働基準監督署)

善意

○町連合婦人会館合支部(佐藤貞支部長) 八塩小へ雑巾110枚寄贈
 ○畑山マサエさん(島) 蔵小へ雑巾100枚寄贈
 ○横山マツミさん(向田) 八塩小へ雑巾100枚寄贈
 ○小野ムネヨさん(上里) 老

観光絵はがき作成

五枚一組全戸に無償配布



「デイスカバーひがしゆり」町では、豊かな農林産資源に恵まれた自分たちの町を見つめ直し、また、自然美に恵まれた純朴な町東由利のPRにと観光絵はがき「第一集」を作成しました。

この第一集は「大平スキー場」「八塩ダム」「湯出野遺跡」「法内の八本杉」の五景一組で、三千部印刷。今春義務教育を

社福だより

方小へ雑巾200枚寄贈

下通の小松澄夫さんから、

亡母スミさんの香典返しとして金一封が届けられました。新町の志村惣一郎さんから、亡母キヨミさんの香典返しと

終えた東中卒業生に一部ずつ贈呈し、町内全戸に一部ずつ配布することにしました。ともすれば「山村」という言葉からのイメージだけが先行し、ふるさとの良さを見失いがちです。この機会に、ふるさとの再発見につとめてみてはいかがでしょう。また、ふるさとを遠く離れている人たちの郷愁の慰めの一助にご活用いただきたいと思います。

なお、残部若干については、希望する人に実費(一部二百五十円)でお分けします。必要の方は、役場企画財政課企画係までお申し込みください。

亡母スミさんが届けてくれました。故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

慶弔だより

3月21日~4日20日受付 (敬称略)

おしる声

佐藤美喜子 宿 秀男 二女
 小松由佳 新町 茂穂 長女
 石渡佐希子 蔵新田 博澄 長女
 長谷山智昭 舟木 節男 六男

結婚

伊東 一夫 蔵
 阿部 香奈子 蔵
 小野 宏毅 祝
 佐藤 良子 新町

《山火事から緑を守ろう》 タバコやたき火に細心の注意を

山菜とりや行楽で、山に入るかたが多くなる季節です。何十年もかかって大切に育てた緑を、一瞬にして失うなんて残念です。タバコの火には、特にご注意ください。たき火の後始末もお忘れなく!



佐々木 徳喜 (大琴)
渡部 節子 (飯田川町)

・お悔み申し上げます
 渡辺 カツ 石高 58歳
 志村キヨミ 新町 79歳
 大極伊三郎 新町 75歳
 高橋要太郎 下小路 88歳

お詫びと訂正

町報四月号表紙の記事中、「五十六年度から着工される出羽丘陵開発事業には……」となつていますが「五十八年度から……」の誤りです。お詫びして訂正します。

